

恩師、安積75期生、同窓生へ 発行部数 三百十部、老後の生き方を真剣に問い掛ける豆新聞 住所変更乞う連絡。

七五期

葉書きの同級会

▼ある朝、妻は新聞のコラムで東北大学で社会人の修士課程の大学院正を募集して居る記事を見付けた。

「あなた挑戦してみたら」と言ったかどうかは知らないが、夫は俄然その気になり、締切り目指して慌ただしく論文を書き上げた。大
学よりお呼びが有り、仙台まで出掛け、3人の教授に
囲まれ面接。無事合格。▼
52才にして大学院生になつた夫は週4日仙台まで通学

初年度22単位を取得。仙台郡山間の運賃は1往復約一
万円。それを週4日、2年間通つたのだから半端ではない。仙台に女でも出来た
のではと勘繰った人も居た
とか、雪の中を大学に着いたのに「大雪だから休講に
しましょう」と言われがっ
くり来た事もあったとか。
卒論のテーマは「地域社会
における地域金融機関の役
割」である。徹夜も続き挫
けそうになることもしばし
、妻は夫を叱咤激励する。
文献を漁り、確認し、教授
に論文を提出。更に教授の
指導で真っ赤にチェックが

入り。出来上がった論文は
まるつきり違つて居たとの
事。▼須佐喜夫⑦福島県商
工信用組合理事長は54才に
して経済学修士となった。
しかも地方金融機関が貸渋
りの続く昨今。彼は胸を張
つて言った。「本年度、当
組合は貸出量2%預金量5
%伸びた」と▼娘智美もこ
の春、日本女子大を卒業す
るに当たり書いた論文が
「地域密着を目指す信用金
庫・信用組合」まさに父娘
鷹である▼夫が修士課程を
娘が学士を終了できた陰に
は由起子夫人の（ヒラリー
クリントン以上の）支えが

有ったからである。まさに
教育ママ兼、教育妻であつ
た。3月25日の仙台での修
了式には教育妻が出席した
のは言うまでも無い。▼谷
代正毅⑥興銀が佐藤隆秀⑦
の名刺を送付してきた。音
信不通の同期生の連絡が取
れるとこんなに嬉しい事は
ない。この新聞の本来の目
的は同期生の住所のメンテ
ナンスなのだから。▼佐藤
はオリックス(株)船舶部長。
船橋市大穴北3・16・5。
豆新聞古い号を送付した。
▼葉書代は様々な人から頂
いて感謝。しかし葉書を埋
めるネタはもつと欲しい。

無責任編集発行 郡山市熱海町熱海4の 村田英男 FAX0249-84-2131 求む、近況報告